

第59回

# 神奈川県 美術展

THE 59TH KANAGAWA ART EXHIBITION 2024

全国公募展

# 第59回神奈川県美術展

The 59th Kanagawa Art Exhibition 2024

## 1期展 [平面立体]

2024年9月4日(水)～9月15日(日)

## 2期展 [工芸・書・写真]

2024年9月18日(水)～9月29日(日)

### 会場

神奈川県民ホールギャラリー

### 巡回展

2024年11月1日(金)～11月10日(日)

### 会場

鎌倉芸術館ギャラリー

### 主催

神奈川県美術展委員会  
神奈川県民ホール  
神奈川県

### 共催

鎌倉市芸術館指定管理者  
鎌倉市芸術文化振興財団  
国際ビルサービス共同事業体

### 協賛

(公財)はまぎん産業文化振興財団  
神奈川県文具事務用品団体連合会  
(株)ホテル、ニューグランド  
松田油絵具(株)  
(一財)神山財団

### 後援

神奈川新聞社・NHK横浜放送局  
tvk・FMヨコハマ

## 第59回 神奈川県美術展 関係者名簿

(2024年9月4日現在)

### 神奈川県美術展委員会

委員長 磯見 輝夫  
副委員長 鈴木 達也

### 委員

中尾 拓哉 長門 佐季 三谷 理華  
吉田 有紀 狩野 智宏 花里 麻理  
石坂 雅彦 日守菜穂子 藤村 里美  
村上 仁一 高橋 康夫 香川智佳子

### 審査員

#### 平面立体

中尾 拓哉 長門 佐季 水沢 勉  
三谷 理華 吉田 有紀

#### 工芸

青木 宏憧 井上 典子 狩野 智宏  
関島 寿子 花里 麻理

#### 書

生駒 蘭嵩 石坂 雅彦 笠嶋 忠幸  
船本 芳雲 三原 彩鈴

#### 写真

小林 紀晴 高橋 瑞穂 永原 耕治  
藤村 里美 村上 仁一

### 応募・入選・入賞者数一覧

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
応募	301人 (381作品)	81人 (87作品)	154人 (172作品)	121人 (121作品)	207人 (511作品)	864人 (1,272作品)
入選	90人 (90作品)	24人 (24作品)	66人 (70作品)	84人 (84作品)	55人 (55作品)	319人 (323作品)
内、入賞	10人 (10作品)	3人 (3作品)	9人 (9作品)	9人 (9作品)	9人 (9作品)	40人 (40作品)

※入選・入賞数は、2024年7月16日時点で確定した数字です。

ごあいさつ



芸術の秋を迎え、今年も多くの皆様から意欲あふれる作品を御出品いただき、神奈川県美術展を盛大に開催できますことを、主催者の一人として大変嬉しく思います。また、この美術展の開催に当たり御尽力いただきました皆様方に、心からお礼申し上げます。

神奈川県美術展の歴史は古く、昭和40年に第1回展を横浜高島屋で開催、その後、第10回展では神奈川県民ホールの開設記念行事の一環として開催されました。これ以降長きにわたって県民ホールギャラリーで開催しており、これまでに多くの方々が、本美術展での入賞を機に活躍の場を広げられてきました。県民ホールは来年1月17日をもって開館50周年を迎えますが、この節目の年に、全部門合計1,272点もの御応募があったことを心より感謝申し上げます。

今年で第59回を迎えるこの美術展は、多くの応募作品の中から厳正な審査を経て選ばれた、いずれ劣らぬ秀作が展示されています。御来場の皆様方には、作家の方々の豊かな感性、優れた芸術性によって創造された作品の魅力を堪能していただけることと思います。

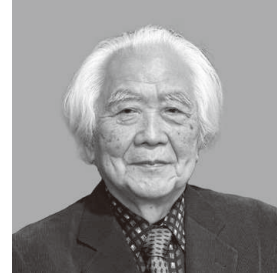
県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー（マグカル）の取組を推進しています。その一環として、「かながわ県民文化祭」を9月から12月にかけて開催しており、本美術展もその一つです。期間中には美術に限らず多様な文化プログラムが県内全域で行われますので、ぜひ御参加ください。

最後に、このたび御出品いただきました皆様の創作活動へのたゆまぬ努力と情熱に深く敬意を表しますとともに、皆様のますますの御活躍を心からお祈り申し上げます。

令和6年9月4日

神奈川県知事 黒岩祐治

## ごあいさつ



神奈川県美術展は、県民文化の向上と芸術家の育成を目的に開催する、県内最大規模の公募美術展です。1965（昭和40）年に始まり、今年で59回展を迎えます。県美術展の歴史の中で、多くの方々がこのコンクールに参加し、作品を競ってこられました。ここを出発点に新進作家として活躍する人も少なくありません。このことは、展覧会事業にご理解いただき、ご協力いただいた皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

作品の制作は、作者とその作者の手によって作られる作品との関係にあります。制作の工程の中で生まれるものは、必ず作者に向かって何かを伝えてきます。それをまた作品に返す、こうしたやりとりが創作だと考えます。自分の作った作品から何を受け取ったかによって、自分にとっての作品の価値が決まるのだと思います。入選出来なかった方も含めて、このコンクールに出品する制作を通して全ての方が創造する喜びに出会ったであろう事を信じています。

また、本美術展には中高生のコンクールが併設されており、これも大切な特色の一つです。なぜなら、人間が成長していく事と美術の制作とは密接に関連する事だからです。

神奈川県は首都圏にあり、相模湾に広く開かれた地域として温暖で開放的な特色があります。2016年より全国公募となり、近年、日本に在住する外国人の方からの応募も増加しました。神奈川県から創作の機会を全国に発信することで、日本国内に留まらない状況が生まれようとしているのを感じます。そして、この広がりが県の文化的向上に寄与するものであることを願ってやみません。

開館以来50年にわたり県美術展の会場として親しまれてきた神奈川県民ホールギャラリーは、令和7年3月末をもって休館いたします。本美術展においても一つの節目をむかえることとなりますが、これからも未来への展望をもって、芸術文化の発展に貢献していきたいと存じます。

令和6年9月4日

神奈川県美術展委員会委員長 磯見輝夫

## 目次

### 1 期展 平面立体

受賞作品目録 平面立体	6
入選作品目録 平面	7
入選作品目録 立体	8
審査講評 平面立体	9
平面立体 受賞作品	10

### 2 期展 工芸・書・写真

受賞作品目録 工芸・書・写真	20
入選作品目録 工芸・書・写真	21
審査講評 工芸	24
工芸部門 受賞作品	25
審査講評 書	31
書部門 受賞作品	32
審査講評 写真	38
写真部門 受賞作品	39

平面立体

---

1 期展

平面立体

大賞	Rin (霖)	東京都	雷が落ちる狭間	平面
準大賞	和田 祐香	茨城県	My Garden	立体
特選	三島 和行	広島県	羽化	平面
奨励賞	千代 泰睦	東京都	天心	平面
かながわ賞	くどうゆうだい	相模原市	よんひきのかえる	立体
かながわ賞	張 梓璇	相模原市	夢心地	平面
県立近代美術館賞	アオトヒデキ	鎌倉市	E-2407	平面
県議会議長賞	ホリグチシンゴ	東京都	ポリィビューポイント #2 / POLY-viewpoints #2	平面
美術奨学会記念賞	土田 安珠	東京都	水面	平面
美術奨学会記念賞	矢作 百花	茨城県	Paper relief 2407	立体
はまぎん財団賞	王 潔茹	相模原市	過ぎたる夢	平面
マツダ賞	中村 公祐	東京都	世界 (レセプション)	平面
神山財団賞	荊 希文	相模原市	大陸屋	平面

- ※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の方を対象とした賞です。  
 ※県立近代美術館賞は、神奈川県立近代美術館による作品買上げ賞です。  
 ※県議会議長賞は、県議会議長より贈られる賞です。  
 ※美術奨学会記念賞は、35歳以下を対象とした賞です。  
 ※はまぎん財団賞は、(公財)はまぎん産業文化振興財団より贈られる賞です。  
 ※マツダ賞は、松田油絵具(株)より贈られる賞です。  
 ※神山財団賞は、35歳以下を対象に、(一財)神山財団より贈られる賞です。  
 ※県立近代美術館賞以降の賞は、創設順に記載しています。  
 ※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者からの提供によります。  
 ※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

平面

秋満 亘	蟲が丘を通る風	知久 茂雄	記憶の街
秋山 雅貴	MIX	茅野のり子	お風呂であそぼう
阿部 智子	希望は雷雨の夜の後	鶴岡 真由	山のある風景、あるいは革命
荒木 八雲	のろま、ぬるま湯	デヒミフカオ	シカ
飯村 優介	スイジンマボロシ	ナガタダイスケ	blur
井川 浩	サイクリスト二人 I	長嶺 高文	アナログ意識、トゥルーマン
池田 尚法	叫喚	沼 舞子	揺らぐ
石井 里枝	光の島	能島 千晴	summer days
市川茉友子	サボテンと私	服部 良美	夕方の窓
今泉 光治	三浦のキャベツ	Hana Gram	ヤマユリとクレマチス
江上 夏希	絵の中と外の話	馬場 敬一	Alone battle - 死を従える女神 -
大西登美子	擬態する仲間たち	浜田 優花	red pocket
小野 三華	森の休息	原 則幸	夕暮れの中で
オノ・ヨシヒロ	Day break	Hitomi	C23-
樫山 詩歩	徒然	水見こずえ	Phantom
何 承霖	BLACK SUN IV	平尾 早希	変身
川並 宏造	光芒	廣島 有華	oasis
カンリ	鯤鵬の志	広瀬 弘幸	堆砂2
木川 温美	Life goes on	PENG JIALE	Simulacrum
木村 創太	Karoshi	彭 楚月	分岐点
木村 哲也	三浦冬の風物詩	何 信宏	夜の進行
久々津寿基	飽和	星野まさのり	into the stars
熊澤 終登	一切の望みを棄てよ	松村 美保	庭園
黒石 大史	虎よ、虎よ	丸山 大樹	「たくさん居た」ことは覚えている
古桜かのこ	tower	瑞吉	杪夏
呉 文豪	門衛	水野 雄現	パリスの審判 - アテナ
蔡 東辰	BUS	満武 京子	葡萄園
笹井 弘	Blue Planet 706	元木 秀信	swallow
佐々木朋子	瞬	山村 秀昭	徴II
貞益 未菜	山集め	楊 柏強	踊り子
佐藤 隆斗	お風呂の番人	尤 一童	冬祭り
ジェイリン祝重	A Griffin's Reverie	YU XIAOKAI	ウイルスからの考え No.5
ZHOU LINA	霧中風景	夢周周	Skin Painting (33)
白井祥太郎	柔らかなる石V	楊 力為	Untitled
城倉 綾子	月とテント	横山 修	時を超えて
瀬川 寛	草樹／鶴居村II	吉田 光児	亡霊2
高澤 伸行	Black Rain H	吉見 結	交差2301
高遠 翔太	まぶたうら	余 璐妍	Invisible
高森 史奈	見える世界	李 丹	自己愛の三面鏡
田代 和花	生きているとき	渡辺 晟太	いのり

※掲載は50音順です。



## 立体

阿部 佳明	不在の隠蔽率
安倍 彩花	狼疾
大久保智子	moire 2407
奥田 誠一	surface - 空蟬の森 -
金井 葉子	嚙香-II
上浦 佑太	15°の切り起こし
高木 謙造	地球鋳型：石に就て
高野 禄英	KANATA
中根 和広	Tail back Stool “Kujira”
林 正人	夜の使者
藤高 圭介	転環七色
藤森 哲	爾今／逆進地未来
松岡 圭介	白の時代 - Periodo Bianco -
松木 建人	BODY・BODY
万年	咲く
村山 恵美	フシギな果実
元木 孝美	背景
矢部もなみ	moi, ici, toi, au loin
山本満里奈	トボット
若栗 由京	本当の話
渡部 信隆	COSMOS

いま神奈川県美術展は、めざましい劇的な展開のなかにあるというよりも、じっくりゆっくりとした成熟の過程にあるように思えます。私自身、今年3月末をもって神奈川県立近代美術館の館長を退任しましたが、1978年に同館学芸員として県職員に採用されて以来、美術館が近代美術館賞を途切れることなく授与するための選定に関わってきたこともあり、県美術展は自分にとってもきわめて身近でたいせつな美術関係事業のひとつでありつづけてきました。

近代美術館としては基本、平面立体部門に審査対象が限られていたので、県美術展全体を論ずることは困難ですが、2016年度以降、応募資格の範囲が県外を含むものへと拡大され、そのことによってそれまでの受賞者たちの水準の高さが、おのずと応募者たちの側の意識にも反映してきたように思えます。そうした価値判断が応募するひとたちにも県という行政単位を越えて広がっていったことは、現代と呼ばれる時代の美術表現の可能性を広げるためにはとても大切なことであると考えます。それは結果的には鑑賞力が育つこととも結びつき、芸術文化活動を理解し、支援してくれる鑑賞者の増加も促してくれたと思います。

そして、この10年ほどのあいだに、応募者の広がりや国境さえも越えて、国際的な様相を呈しはじめていっているのではないのでしょうか。

今回、大賞の対象となったRin (霖) さんの《雷が落ちる狭間》は、平面作品ですが、技法的には旧来の洋画・日本画というような既存のジャンルの分類から外れる技法(油彩とテンペラの併用)や手法(上下遠近法)が使われ、しかも、描かれている題材も、東洋絵画全般に、とくに中世以前の絵巻などの表現法も大胆巧みに取り入れ、歴史的な関心の広がりを感じさせるものなのです。作者が現代という時間枠からも自由であることが窺えます。アーティストネームからだけでは、出身地まではわかりませんが、おそらく中国大陸に根ざす日本に限定されない感性が妖しく花咲いているように感じられる作品でした。審査員全員も大賞に相応しいものとして高く評価いたしました。

一方、準大賞の和田祐香さんの樹脂とアクリルを使用した《My Garden》は、小さな植物を思わせる有機的なフォルムが不規則に密集し、しかも、立体でありながら、垂直性を抑えて、水平の広がりや強調し、微妙な色彩の変化がアクリルによって加えられ、その結果、まるで水紋が揺らぐような静かで軽やかな光景が出現するインスタレーション的な性格を備えた作品であり、全体として爽やかな印象を残す秀作でした。

近代美術館賞のアオトヒデキさんの《E-2407》は、紙を支持体にして、鉛筆で記号や文字を思わせる無数の形象を鉛筆で丁寧に濃淡のリズムを加えながら、画面全体に描き尽していく、これもエンドレスな広がりを感じさせてくれる解放感溢れる絵画作品でした。

鋭い切り口で現代性に迫っていくという点では、今回は、全体としてやや迫力を欠いていたかもしれません。とはいえ、確かな技術力に裏打ちされた完成度の高い作品が多く含まれ、そこにおのずと異文化の感性も混ざっていたように思えたのです。公募展の素晴らしさは、いままで知らなかった思いがけない他者との出会いや常識とは異なる表現の可能性を自覚させてくれる点かと思えます。その意味で、予想外であることや、えっと驚く違和感は、むしろ歓迎されるべきものなのです。まさにそれが大賞作品にみごとに体现されていました。成熟とは、未知なるものへの拒絶ではなく、そうした違和をも寛大に受け入れていく態度の深化にほかならないのではないのでしょうか。

神奈川県美術展が60年を越えた歴史をさらに刻み、より開かれたものへと熟成し展開していくことを心より期待しています。



## 大賞

### 雷が落ちる狭間

Rin (霖)

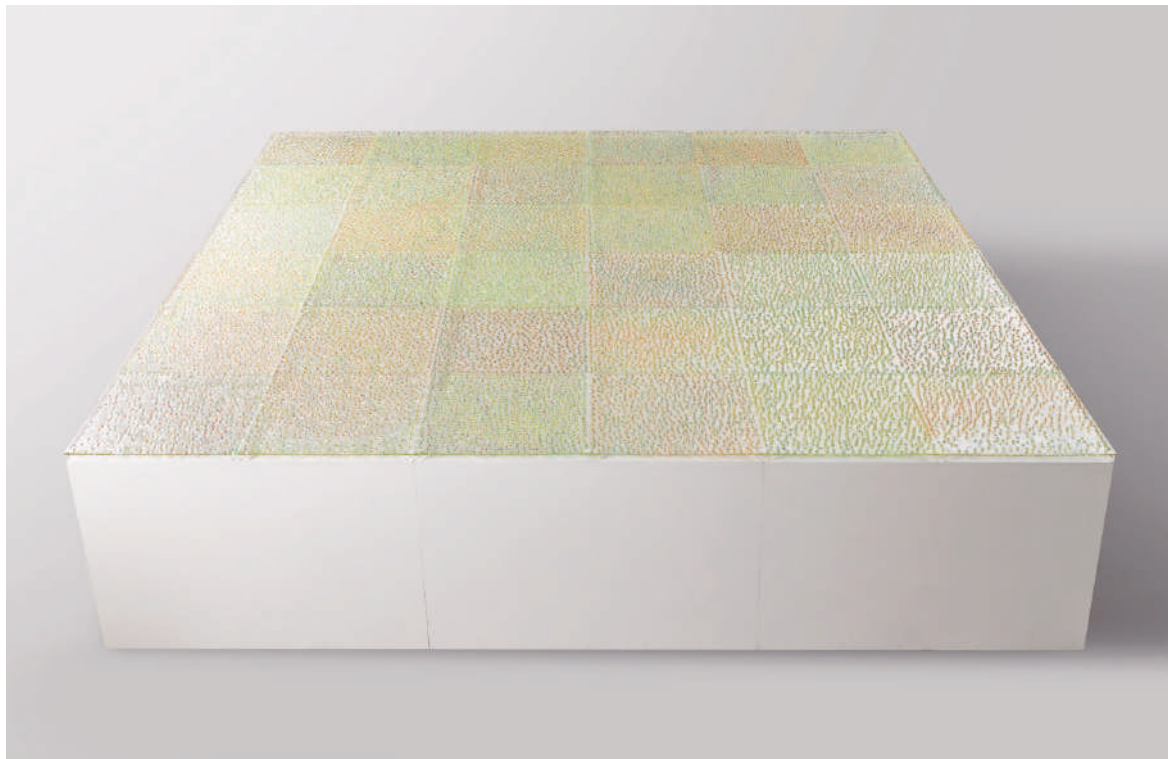
テンペラ・油彩  
162×130.3×3.5cm

#### [略歴]

中国重慶市生まれ  
高中卒業後日本に留学  
2020年 神戸芸術工科大学入学  
2021年 女子美術大学入学  
2023年 武蔵野美術大学2年編入

#### [展示]

2022年 第18回きりしま美術大賞展 霧島市文化協会賞／国分シビックセンター（鹿児島）  
一般部門の特別賞巡回展／旧田中家別邸（鹿児島）  
第33回美浜美術展 入選／美浜町生涯学習センターなびあす（福井）  
2023年 国立市3ギャラリー合同企画「つなぐ展」／アートスペース88（東京）  
第58回神奈川県美術展 入選／神奈川県民ホールギャラリー（神奈川県）  
Over REV. アジア留学生作家交流展／The Artcomplex Center of Tokyo ACT（東京）  
武蔵野美術大学油絵学科2年進級制作 榎山祐和賞／校内（東京）  
2024年 MUSABIオープンキャンパス学生選抜展／校内（東京）



準大賞

My Garden

和田 祐香

樹脂・アクリル  
65×270×270cm



[略歴]

2001年 三重県生まれ  
2024年 筑波大学芸術専門学群 卒業  
筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群  
博士前期課程芸術学学位プログラム 在籍

[展示]

2023年 個展 alloy代官山  
第58回神奈川県美術展1期展〔平面立体〕  
2024年 筑波大学卒業・修了制作展2024〔卒展後期〕



特選

---

羽化

三島 和行

油彩・キャンバス  
130.3×162×3cm

奨励賞

---

天心

千代 泰睦

アクリル、油絵具、キャンバス  
162×130.3×3cm



かながわ賞

---

よんひきのかえる  
くどう ゆうだい

大理石  
30×60×30cm



かながわ賞

---

夢心地

張 梓璇

パネル・麻紙・岩絵具  
130.3×162×4cm

県立近代美術館賞

---

E-2407

アオト ヒデキ

紙・鉛筆  
181.8×227.3×5cm



県議会議長賞

---

ポリビューポイント #2 /

POLY-viewpoints#2

ホリグチ シンゴ

綿布・アクリル絵具

182×146.4×2.6cm



美術奨学会記念賞

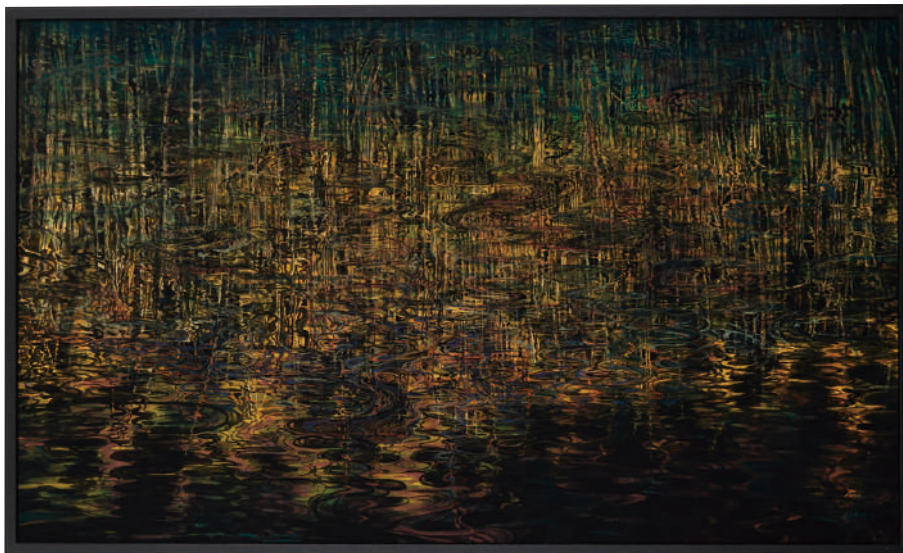
---

水面

土田 安珠

紙本着彩

97×162×3cm







美術奨学会記念賞

---

Paper relief 2407

矢作 百花

タント紙・木製パネル  
53×196×12cm



はまぎん財団賞

---

過ぎたる夢

王 潔茹

岩絵具・箔・パネル  
77×217×4cm

マツダ賞

---

世界 (レセプション)

中村 公祐

oil on panel  
91×145.4×2.5cm



神山財団賞

---

大陸屋

荊 希文

日本画  
165×210×3cm



工芸・書・写真

---

2期展

## 受賞作品目録

### 工芸

大賞	鷺野 愛未	横浜市	瞬刻	木工(寄木)
準大賞	植松 竹邑	平塚市	はごろも	竹工
特選	DONANAKO	横浜市	私から見た甲虫図鑑	染め
奨励賞	張 敏	広島県	身体の痕跡	漆
かながわ賞	王 悦	川崎市	足跡	陶
かながわ賞	金子 博子	横浜市	みのりのはこびや	ガラス
美術奨学会記念賞	新井 陽太	東京都	Border	ガラス
美術奨学会記念賞	張 銘韡	東京都	救・贖	染織
ホテルニューグランド賞	菜や	長野県	木あかりチェスト	木工

### 書

大賞	片岡 雪輝	横浜市	李賀詩
準大賞	久村 拓司	鎌倉市	白秋の青いソフトに
特選	中里 牧子	横浜市	嗚呼貝の浦
奨励賞	浅香 麗芳	埼玉県	賈至詩
かながわ賞	稲垣 奏庭	横浜市	漱石の句
かながわ賞	森 俊行	横浜市	陸奥
美術奨学会記念賞	面谷 潤	横須賀市	安
美術奨学会記念賞	小山 蘇龍	川崎市	張伯元詩一節
県文具事務用品団体連合会賞	古里 航	茅ヶ崎市	舎近謀遠者勞而無功

### 写真

大賞	于 阿干	東京都	アバ	3枚組
準大賞	スズキタイト	東京都	General Emptiness	3枚組
特選	ムラコシユタカ	東京都	青山	3枚組
奨励賞	田名網宏昭	平塚市	Nature & Life	
かながわ賞	石渡 延次	横浜市	ダンスホール	3枚組
かながわ賞	荻久保次郎	相模原市	空模様	3枚組
美術奨学会記念賞	大河	東京都	昼さがりの水辺	2枚組
美術奨学会記念賞	二階堂真優	東京都	夏の生を記憶するものたち	3枚組
神奈川新聞社賞	稲垣 健	横浜市	大切なもの	

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の方を対象とした賞です。

※美術奨学会記念賞は、35歳以下を対象とした賞です。

※ホテルニューグランド賞は、工芸部門において(株)ホテル、ニューグランドより贈られる賞です。

※県文具事務用品団体連合会賞は、書部門において神奈川県文具事務用品団体連合会より贈られる賞です。

※神奈川新聞社賞は、写真部門において神奈川新聞社より贈られる賞です。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者からの提供によります。

※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

入選作品目録

工芸

Acra fiber arts	Life flow	繊維造形	春香	hole	日本刺繍
ami*ami	two face	編み物		地球の記憶	日本刺繍
Ikachi	野球少年	陶		核心	日本刺繍
石田 季子	彼女たちのブローチ	彫金	福岡 桜子	あの山	金工
石橋 伸一	吉田邸よりの「大磯の海」	漆	藤田 慎治	灰釉葡萄紋壺	陶
上原田 梓	悠久と刹那ー小田原III	ガラス	二俣 吉秀	不死鳥	皮革
植松 勇人	模細工	木工	古坊 聖子	108	陶
宇佐美夏樹	灯	陶	三沢 俊一	花籃：木の実	竹工芸
内山 柚香	存在を探す／わたしは、	ガラス	宮川 理衣	内包	ガラス
生頼美砂恵	綻び	陶	宮本 知三	月下龍笛	木彫
大川 琴音	vitality	ガラス	村越 敬太	歩く子ども	陶
小川 和孝	先人の知恵・再生	髹漆	森 あゆ	偶像崇拜	陶
加藤 陽香	生命力ー coral 白色光ー	引き染め・抜染	森岡由記子	普賢菩薩	人形
	生命力ー coral 赤色光・青紫色光ー	引き染め・抜染	矢部 啓嗣	membrane structure	磁器
加藤ゆりあ	collapse	陶	山野うさぎ	みつめるうさぎ	陶
橘川 和男	安寧の宴	木漆工芸	山平 萌生	再生	染織
久保万理子	はなの咲く頃	漆	横打 珠季	Flow	刺繍
黒江 黒絵	龍	金工	Yoshiko	うちの庭番	陶
呉 棗田	雲海	陶	よだゆうか	どうぞなかへ	ガラス
小酒井基紘	暁のアフリカ象	織物	LamPraw	自灯明	ひょうたんらんぶ
児玉 美幸	Hurt each other	編み物	Rivers	Trace-2024	ニードルレース
小山 透	森羅万象	木工	(Qinnan Zhu)		
佐藤 匠	千年桜	磁器	劉 宇凡	白昼夢	漆
清水 実	組木パズル 雪華	木工	レイモンド愛華	Metamormute	ガラス
下平久美子	雲居の花	陶	若菜 穂香	泡氷II	ガラス
新村 和泉	夕陽夕風 Sekiyo Yukaze	染織	渡邊 奄成	梵字 般若心経	梵字アート
菅 将仁	Flame	陶			
鈴鹿 萌子	ゆく河の	染織			
谷原 有咲	Anxiety ーずっとこのまま	鍛金			
塚田えりか	エリンギの休日	陶			
Dohyeon Kim	MOMENT	ガラス			
鳥元 哲哉	ブルメリアに願いを	ストリングアート			
	ゴールデン・エイト	ストリングアート			
佟 昊霖	水中白鷺図	金工			
長島 早苗	Forest・ふおれすと	押花			
はらだひまわり	me time	ガラス			

※掲載は50音順です。

書

青樹 堯瑩	宣州使院別韋應物	長井 黙庵	まちのあかねの詩 (黄色の街)
浅見 玲湖	贈蘇味道	中田 早苗	長生安楽
安達 晴子	万葉集二首	中西 晃雪	庭の面は…
阿部 茜蝶	純白の山紫陽花	長野 和美	孤月とお日様
池田 美子	この道	中村 春汀	恋しやな
稲垣 美穂	曜変天目の小宇宙 石野マキの詩	日守 鍊	夜空が咲く
稲垣 蓮珠	湖岸	早坂 天岑	李清照詞「夢を記す」
猪野 公一	雀入大水為蛤	林 光韻	復興のいのり
猪野 光舟	以和為貴	林 蘭愛	空間の躍動
今川 佳香	妊竹入石	平澤 毅	時は雄大
上山久里子	ふゆと春と	広瀬 省二	冬景色
牛山 香流	元好問詩	深沢 和子	平和こそ力
大山 蘭翠	金木犀	福林 聖華	馬戴詩
片岡 稲處	李太白詩	古河 裕子	一葉のうた
蒲谷 雄一	白黒	古矢 春喧	祖詠詩「汝墳別業」
亀田 英舟	高樹解伯都造像記	堀井 杏苑	秋麗の桂花
川上真理子	心のとびら	本間 琴秀	薄明
河又世津子	春すぎて	前橋 蒼峻	在獄詠蟬
城戸 赫陽	秋田竿燈	又場 唯斗	恋
楠瀬 六香	みえない手紙	松井 玲翠	送章彝下第 綦母潜詩
児玉 真理	地に祈る	松浦 敏恵	陪竇侍御泛靈雲池
小林 史青	小澤克己の句	松村 艶子	張問陶詩
小林 眞静	夏草の	松本佳乃子	古風 其の四十
小堀 由美	めぐりあひて	水野 燕風	燃えよ
相根 恒舟	万葉集三首	三橋 和泉	岑参詩
坂本 守	仏説摩訶般若波羅蜜多心經	宮嶋 春峰	詩 まちぼうけ 北原白秋
篠崎 北流	藤村の詩	村上 裕子	後撰和歌集より
篠 能里子	銀河鉄道	目黒 陽子	春霞
嶋村 和子	杜甫詩	両角 花生	木漏れ日に揺れる緑
島本 春鈴	渭川田家	矢島 和代	百人一首
鈴木 游舫	武蔵国分寺	矢野 龍谷	千利休 (北原白秋詩)
高橋 千翠	春の山里	山田 緑亭	長恨歌
高橋 康子	白描	山本 清子	駅舎のミモザ
高原 香蘭	紫のまだらのかづら	吉村 明子	浜辺の歌 (林 古溪)
竹内絵里子	瓢箪ランプの不思議	米村 千玲	擬蘇李詩
角田 翠皎	風になびく	林 瑋堂	瑋堂朱跡留痕
傳甫 菁月	万葉集より		
富塚 香峻	杜少陵 秋興		
内藤 満里	古石硯		

※掲載は50音順です。

## 写真

青山 仁子	銀盤	
浅野 祐生	大地拍動	3枚組
荒川 拓大	海鳴り	3枚組
石井 健太	ハローエラー	3枚組
石戸 俊夫	蒲田	3枚組
伊藤 安鐘	残夜、陽を待つ	3枚組
伊藤 拓郎	刹那滅	3枚組
伊藤 敏児	風の跡	2枚組
乾 清一	夏の日	2枚組
伊部 慶一	漂揺	
岩崎 茂樹	K氏	2枚組
牛木 実	待った、待ったなし	
大澤 勇	友だち	
大野 詳平	禁断の果实	3枚組
小川 淳	Origin	3枚組
加藤 俊樹	失語症・逃げる言葉 5	3枚組
加藤 豁子	集まって	
鎌野 浩	一瞬	
木佐貫直人	静寂	3枚組
GENZO	彩色計画「精霊の庭」	3枚組
小石川良一	凍てる湖面	
こうのさちこ	記憶	3枚組
小杉美千代	飛ぶ夢を見た日	3枚組
紺田 達也	[L / D ; to do]	3枚組
佐藤 健司	三者三人の顔	3枚組
佐藤博三千	流浪	3枚組
清水 節郎	早春流水	
鈴木ちあき	Second Home	3枚組
勢井浩二郎	Sky Fish Boy	3枚組
高橋 春生	桃源郷	
竹下 清	Zの創世記	3枚組
立田 幸生	恋のヴギウギ	
谷村 直美	仲良し 笑顔	
nao.	サクラ	
中沢 賢治	祈り	3枚組
haco	Bayside Blues	3枚組
坂東正沙子	Replace	3枚組
Poisonless Cobra	Prayer for Peace	
ほしのまゆ	But I'm not alone	

三浦 勇人	Beija-flor ~dahlia~	
三谷 享	だまし絵の世界	3枚組
峯岸 誠一	心模様	3枚組
三村 信昭	住民票のない私たち	3枚組
村田 彰	湿地に輝く星座群	
Rieko Suzuki	森に棲む	
渡部 和範	雄叫び	

※掲載は50音順です。



工芸の分野で自身の思いを表現するには、工芸素材についての知識やそれを扱う技術の習得が必要で、それには時間がかかります。そして、表現することの醍醐味は、その先の、言わば挑戦の域にあります。

挑戦とは、素材や技術とつくり手とのせめぎ合いのことです。習得した素材や技術に対して、改めて自身のアイデアで向き合っこそ、素材は新しい表情を見せ、つくり手も既存の技術が独自の手法に展開していきます。そうしたせめぎ合いが、作品に個性と見る者をあっと言わせる迫力をもたらします。公募展は、そうした試みを披露する絶好のチャンスです。もちろんプロアマを問いません。

さて、2024年度の工芸部門への応募は154人で、一人3作品までのエントリーが可能なため、応募総数は172作品でした。前年より増えたことが嬉しく、入選点数に反映されるのを期待して審査にあたりましたが、結果は意外にも70点の入選にとどまりました。その後投票で賞候補9作品を選出し、投票と討議を重ねて大賞、準大賞、特選受賞作を、そのほかの賞は条件に応じて決定していきました。

以下に、各受賞作について審査員が目にした点を記します。

大賞を受賞したのは、鷲野愛未さんの木工芸の作品《瞬刻》です。フクロウが獲物を狙う瞬間をうまく捉えています。木材の自然の色合いを生かし、寄木の手法を用いたり、あるいは鳥の羽毛を表現するためにやすりをかけるなどして素材の新たな表情を引き出して、細かなパーツを丹念に重ねてモチーフの質感やボリューム感を表現しています。22種類の木材を使い分けているそうです。審査員は、素材や技術を駆使した工芸独特の精緻な造形に現代の感性が表されていると考えました。

準大賞の植松竹邑さんの竹工芸の作品《はごろも》は、大賞受賞作とは対照的に、抽象性の高い表現です。その美しさは、竹ひごを曲げてつくる曲線や整った編み目、竹の節の位置どりなど、素材の特性を徹底してコントロールすることで表現されています。また、左右に広がる衣羽は螺旋を描くように

空間的に考えられています。素材や技術に対する熟知と抽象表現への追求が抜群に際立っていました。

特選を受賞したDONANAKOさんの染織作品《私から見た甲虫図鑑》は、モチーフの形態把握や、模様や体毛などを描写する線描写の魅力、多彩な色使いなど、デザイン的な感性と工芸手法との合致が見事でした。なぜ「甲虫」なのかを尋ねたくになりました。

奨励賞の張敏さんの漆の作品《身体の痕跡》は、乾漆技法で制作されています。マチエールを使い分けて女性の身体の変化を表現したメッセージ性の強さが印象に残りました。

県内在住・在学・在勤の方を対象とするかながわ賞を受賞したのは王悦さんと金子博子さんです。王さんの陶芸作品《足跡》は、高さ80センチほどの堂々たる壺です。全体と口の形との関係など、改善の余地があるとは思いましたが、何より挑戦の心意気を評価しました。

同じくかながわ賞の金子さんのガラスの作品《みのりのはこびや》は、素材の不透明感、絵付け強い色調、モチーフの諧謔みのある形態描写など、独自の世界観をつくり出しています。昨年度に続く受賞となりました。

ホテルニューグランド賞を受賞したのは「菜や」さんの木工芸の作品《木あかりチェスト》です。実用性を重視してはいますが、隠し得ないユーモアに作者の個性が窺われました。

35歳以下を対象とする美術奨学会記念賞を受賞したのは張銘韡さんと新井陽太さんです。張さんの染織作品《救・贖》は、海中世界を幻想的に表しています。新井さんのガラスの作品《Border》は、素材の流動性を可視化させています。二人とも、独自の表現に達しているとは言い難いように思いましたが、ダイナミズムがあるように感じられ、今後に期待したいと考えました。



## 大賞

### 瞬刻

鷲野 愛未

木材(全22種)  
63×71×30cm

#### [略歴]

1992年11月 神奈川県横浜市出身  
2012年4月 東京藝術大学デザイン科 入学  
2018年3月 東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻空間・設計研究室 修了  
4月 千葉大学工学部 総合工学科 デザインコース 非常勤講師  
現在 東京藝術大学デザイン科 教育研究助手

#### [受賞歴]

2016年 第64回 東京藝術大学 卒業・修了作品展 東京藝術大学平成藝術賞  
MITSUKOSHI×東京藝術大学デザインコンペティション アート&クリエイションデザインアワード オーディエンス賞  
2017年 石川県加賀市 中谷宇吉郎・雪の科学館「雪のデザイン賞」佳作  
2018年 第66回 東京藝術大学 卒業・修了作品展 台東区長奨励賞

#### [主な展示歴]

2016年1月 第64回 東京藝術大学 卒業・修了作品展 東京都美術館  
6月 平成記念美術館ギャラリー「東京藝術大学平成藝術賞 受賞作家展 未来の大芸術家たち」  
7月 青山スパイラル「くらす 空間デザインの実験」  
8月 日本橋三越日本橋三越新館1階エスカレーター前 特設会場「MITSUKOSHI×東京藝術大学デザインコンペティション アート&クリエイションデザインアワード」  
2018年1月 第66回 東京藝術大学 卒業・修了作品展 東京藝術大学美術館 3階  
2月 西武渋谷店 B館8階 美術画廊 「東京藝術大学130周年記念 ARTS AFFAIR OF GEIDAI」  
4月 青山スパイラル3階 SICF19  
5月 新宿伊勢丹5階アートギャラリー  
6月 新宿伊勢丹5階アートギャラリー  
8月 日本橋三越本店 本館6階 美術フロア MITSUKOSHI×東京藝術大学 夏の芸術祭2018  
8月 日本橋三越本店 本館6階アートギャラリー 個展  
2019年2月 銀座三越7階ジャパンエディション 靖山画廊 常設スペース  
5月 青山スパイラルSpiral Garden 素展(東京藝術大学&OBOG)  
5月 渋谷ヒカリエ 8階 CUBEL2.3 / ギャラリー MONSTER Exhibition  
8月 Paris Exhibition Galerie Grand E' Terna Paris  
10月 星野リゾートOMO東京大塚ベース OMOベーススペース 個展  
2021年10月 公益財団法人日本野鳥の会 西五反田事務所(財団事務局)「コ・トりの市」個展  
2023年4月 神宮前 TIERS GALLERY  
9月 New York City Blue Gallery  
11月 BAG -Brillia Art Gallery-



## 準大賞

### はごろも 植松 竹邑

真竹・千島笹・籐  
33×133×19cm

#### [略歴]

- 1947年 東京都生まれ
- 1976年 大分県別府市職業訓練校で竹工の基礎を習う
- 1988年 漆工芸作家・根本曠子氏に漆工の基礎を習う

#### [公募展]

- 1992年 サントリー美術館大賞展'92 一挑むかたち (サントリー美術館/東京)
- 1998年 第34回 神奈川県美術展 入選 (神奈川県民ホールギャラリー/神奈川)
- 第36回 同 (2000年) 特選
- 第38回 同 (2002年) 県議会議長賞
- 第40回 同 (2004年) 美術奨学会賞
- 第41回 同 (2005年) 入選
- 第50回 同 (2014年) 入選
- 第58回 同 (2023年) 入選
- 朝日現代クラフト展 (うめだ阪急百貨店/大阪)
- 同 (2000年)
- 2003年 第16回 富嶽ビエンナーレ (静岡県立美術館/静岡)
- 2022年 2022金沢・世界工芸コンペティション (金沢21世紀美術館/石川)



特選

私から見た甲虫図鑑

DONANAKO

綿

130.3×97×3cm



奨励賞

身体の痕跡

張 敏

漆・和紙・コウゾの繊維・もみ殻  
75×120×25cm

かながわ賞

足跡

王 悦

陶土・釉薬  
80×42×42cm



かながわ賞

---

みのりのはこびや

金子 博子

ガラス  
22.5×27×20.5cm



美術奨学会記念賞

---

Border

新井 陽太

ガラス・アルミ箔  
49×67×41cm



美術奨学会記念賞

救・贖

張 銘鞆

布  
172×175cm

ホテルニューグランド賞

木あかりチェスト

菜や

木材  
130×40×35cm



～先人の会話より～

殿村藍田、比田井南谷、青木香流、竹田悦堂、大島崑山、吉田蘭處、仙場雨洋、石川芳雲、城所湖舟の各先生方は全国に名を馳せた著名書家であり神奈川県美術展の主要審査員であった。

さて30数年ほど前、私が審査を補助する委員になった頃、審査員長は殿村藍田先生であった。私達委員は、作品を漢字、かな等のジャンル別にすることや、繰出する順序を指示するといった裏方の仕事を担うと同時に、入落の決定、賞候補選出、受賞決定などの過程を見聞するのである。その年、大賞はかな作品であった。

審査終了後、審査員長の殿村藍田先生が、審査員のお一人であった竹田悦堂先生に「悦ちゃん、このかなの大賞作品はどこの中中の作家だい？」と問いかけられた。すると悦堂先生は「私にもわかりません」とお答えされたのである。このお返事は私達にも意外であった。竹田悦堂先生は仮名書道界の代表格で、また殿村藍田先生は漢字だけでなく、著名なかな古筆研究者から「古筆と見紛う程の作」と評される巨匠である。

あらためてこのお二人の審査眼に敬服しつつ、この短い会話の中に、どこの社中、作家といった情報に関係なく良い作品を選ぶという神奈川の書の伝統が凝縮されており、それが今も生き続けていると思わずにはいられない。このたびの審査を終えて、しみじみと思い出されたことである。

船本芳雲

これまで半世紀以上の長きにわたり公募・開催されてきた神奈川県美術展が、県民ホールの休館に伴い一つの節目を迎えた。その歴史の重みは、先述された船本先生の文意、思い出や所感の文章内容に浮彫りとなっている。そしてまた関係者の皆さまの固りしれない努力により成し得た功績そのものでもあるだろう。

書部門が抱える根本的な課題は実に明解だ。近年における目覚ましいIT化拡張の時流、さらには少子化の社会現象などに象徴されるとおり、教育文化そのものに大きな異変が生じている現代だ。このことを背景にして、書道文化そして手書き文化そのものが衰退してゆく傾向にあるものの、手書きすること自体が消えてなくなる訳ではない。この点に、書道文化は今後どう対応してゆけるのか、が未来の本質的課題といえる。つまり、公募展での書部門の出品点数の減少は、避けて通れぬ自然な傾向であるなら、無理のない、実態に即した知恵と工夫も公募・審査する側には必要なのだ。

本年度の出品数は、121作品。そのうち84作品が入選作となった。審査の手順は通年通り、得点数による仕分けの後に、上位の作品を再度、全審査員で見直しつつ、意見交換をおこなって、大賞は片岡雪燁氏「李賀詩」に決定した。形式的だが全体のバランスの充足感を見て取り、満場一致となった。準大賞の久村拓司氏「白秋の青いソフトに」、特選の中里牧子氏「嗚呼貝の浦」と、受賞作品は各ジャンルから優秀作が選出された。大賞、準大賞の2作品は壮年の方々の秀作で、特選の作品は若手の期待作。出来栄え重視で、吟味された事が望ましい。

美術・芸術の作品制作という観点から書作品をうかがうと、文学性や歴史・伝統性を重んじる傾向が強いこともあるためか、各審査員における選定基準がしっかり共有される事自体が、そもそも難しいのだが、それでも現場では、各々しっかりと意見を出すことに同意協力し、協議をおこなって受賞作は決定された。こうした手順の確かさと公平性を保っている点は、本公募展の大きな信頼を生んでいる。今後、また再開されたのちも、こうした信頼を保持して発展されんことを期待する。

笠嶋忠幸





大賞

李賀詩

片岡 雪燁

182×61cm

[略歴]

1960年 横浜市生まれ  
毎日書道会 審査会員  
東方書道院 同人  
朝聞書会 評議員  
東原書道会 理事  
神奈川書家クラブ会員  
師 生駒蘭嵩

[受賞歴]

日展入選  
毎日書道展会員賞受賞

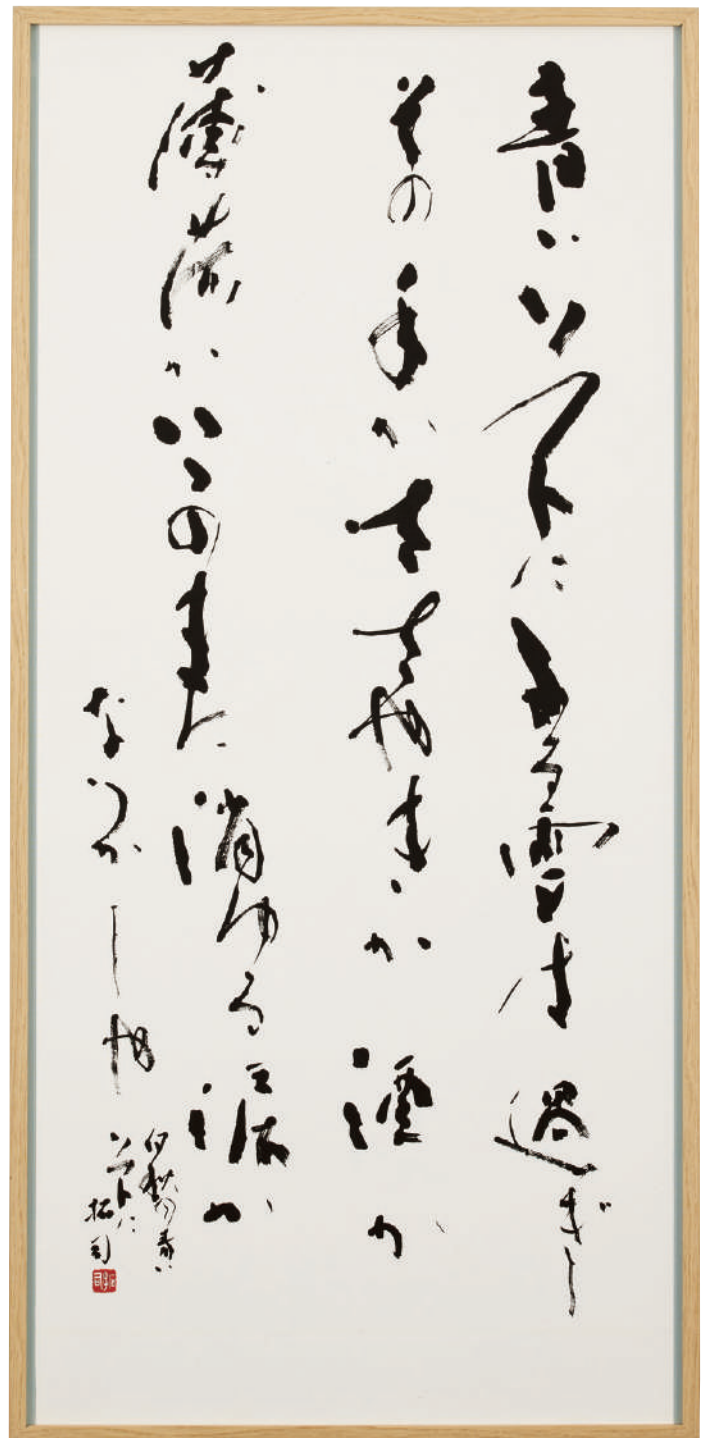
## 準大賞

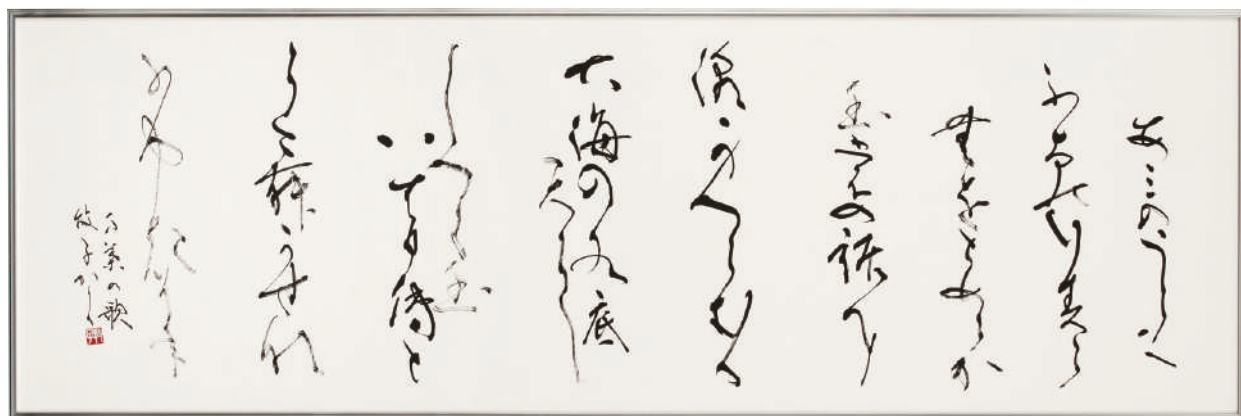
白秋の青いソフトに  
久村 拓司

152×73cm

## 〔略歴〕

埼玉県大宮市出身、神奈川県鎌倉市在住  
一般社団法人 書燈社理事  
毎日書道展 審査会員  
第56回神奈川県美術展 かながわ賞受賞





特選

鳴呼貝の浦

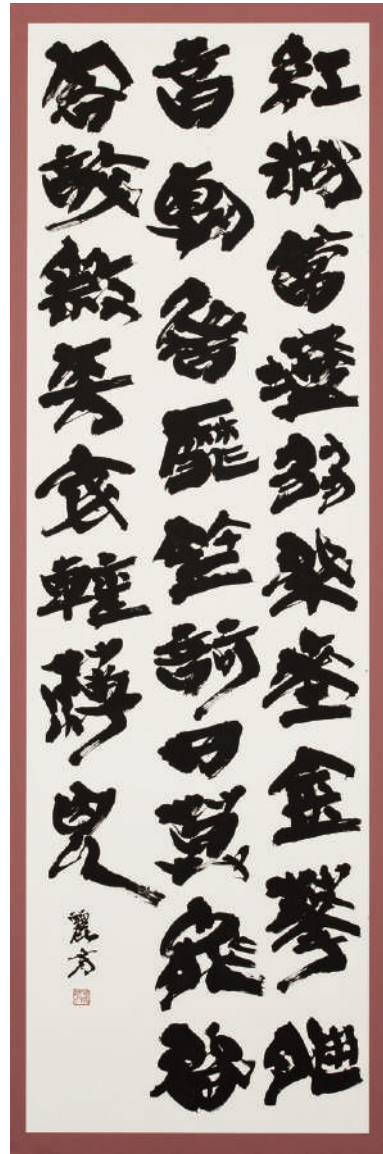
中里 牧子

61×182cm

奨励賞

賈至詩  
淺香 麗芳

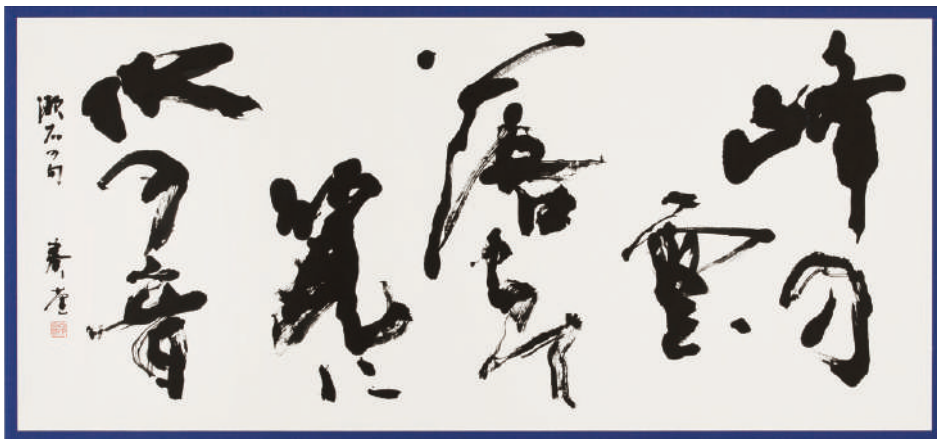
182×61cm

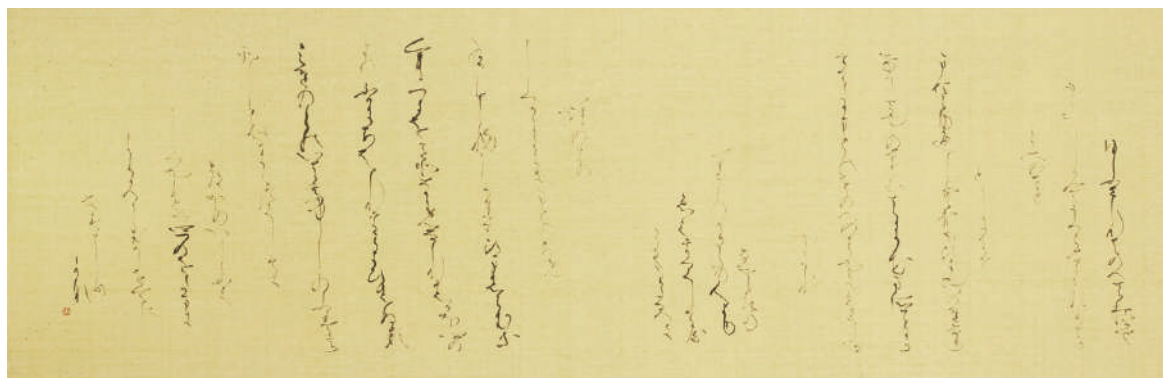


かながわ賞

漱石の句  
稲垣 奏庭

73×152cm





かながわ賞

---

陸奥

森 俊行

61×182cm

美術奨学会記念賞

---

安

面谷 潤

91×121cm



美術奨学会記念賞

張伯元詩一節

小山 蘇龍

182×61cm



県文具事務用品団体連合会賞

舍近謀遠者勞而無功

古里 航

39×30cm

今年度の応募総数は、昨年より少し減って207人から511作品の応募がありました。コロナ禍も収束して遠出や旅先での写真も増え、旧来の心象風景やスナップ作品が多かったのですが、他者や社会と向き合い、現代という時代や社会情勢を反映した作品、あるいは最新の画像生成AIなどを駆使したような作品は少なかった印象です。

大賞に選ばれたのは于阿干さんの作品《アバ》。場所は、中国四川省の「アバ・チベット族チャン族自治州」でしょうか。チベット仏教の祈禱旗タルチョが燃える近景、小山で人々がくつろぐ中景、白い馬が引きで写る遠景と、組写真3点のバランスがとてもよく、審査員の全員一致に近い形で入賞が決まりました。スケールの大きいドキュメントであり、3点を通して張り詰めた緊張感があります。また冬の高地の空気感をプリントでうまく再現しています。于阿干さんはその他の応募作も完成度が高く、審査員の注目を集めていました。

準大賞を受賞したズキタイトさんの《General Emptiness》は、一見ストレートな写真に見えますが、よく見ていくと、リアルな光景にスライドか何かでプロジェクションしたものを撮影しています。二重写しにすることで、超情報化社会の現代に生きる人々の、漠然とした空虚感を表現したのでしょうか。視覚的な面白さがあると同時に、投影されたQRコードやストリーートの看板やグラフィティアートなど、意図的なメッセージ性も感じられます。

特選を受賞したムラコシユタカさんの《青山》は、現代的な都市の光景を3枚組の縦位置写真でシャープにとらえています。いずれもガラス越しに街の光景が反射し、ブルーがかった線的な世界です。その他の応募作《渋谷》、《中目黒》も同様に、それぞれの街の特徴をギリギリまで削ぎ落とし、3枚組の作品にうまく落とし込んでいました。

奨励賞を受賞した田名網宏昭さんの《Nature & Life》は、物憂げな女性の横顔をシルエットに、空と樹木が逆向きに溶け込んでいます。2枚の写真を重ね合わせたのでしょうか。詩的な雰囲気、思わず見入ってしまう、イメージが膨らむ写真となりました。

かながわ賞、石渡延次さんの《ダンスホール》。写真に印字された日付は1994年1月20日。今から30年前の写真ですが、不思議なユーモアが感じられる3枚組です。スマートフォンもSNSもなく、フィルムカメラで撮影していた当時、人物撮影についても今ほど問題視されていませんでした。ライブの熱気と楽しいな雰囲気が伝わってきます。もう一人のかながわ賞、萩久保次郎さんの《空模様》は、雷、雪、雲の隙間から漏れる太陽の光と、自然風景の空模様を、巧みなカメラワークで捉えています。モノトーンのようにも見える、プリントのクオリティの高さも評価の対象となりました。

美術奨学会記念賞、大河さんの《昼さがりの水辺》は、水辺の美しい光で野鳥をとらえた2枚組の作品。ハトのつがいを至近距離で捉えたキスシーンのような一点が際立って、もう一方の引きの写真が蛇足ではないかと賛否が分かれました。勇気を持って、一点に絞っても良かったかもしれません。二階堂真優さんの《夏の生を記憶するものたち》は、セミの抜け殻や羽に群がるアリの大群など、足元の生き物をよく見てダイナミックに捉えています。タイトルもいいですね。「生きている事と死んでしまっている事と、それは両極ではなかった」という、志賀直哉『城の崎にて』の一説がふとよぎりました。

神奈川新聞社賞を受賞した稲垣健さんの《大切なもの》は、吹奏楽部の女生徒でしょうか。クラリネットを手を持つまなざしが瑞々しい。新聞社賞にふさわしい、ストレートなポートレート作品で好感が持てます。

今回も審査していて見応えのある作品が多数ありました。神奈川県民ホールは老朽化に伴い、令和7年3月31日をもって休館するとアナウンスされていますが、昭和40年から続く歴史ある公募型美術展、ぜひ何らかの形で継続して行ってほしいと願っています。



## 大賞

---

アバ

于 阿干

[略歴]

1995年 中国四川省生まれ

2018年 来日

2022年 東京工芸大学学部研究生修了

現在 東京工芸大学大学院芸術学研究科在籍中

[受賞]

APA AWARD 2024 入選





## 準大賞

### General Emptiness

スズキ タイト

#### [略歴]

1991年 東京都生まれ  
2015年 日本大学文理学部哲学科卒業  
2024年 京都芸術大学大学院 芸術研究科 (通信教育)  
芸術専攻 写真・映像領域 修士課程 在籍中

#### [個展]

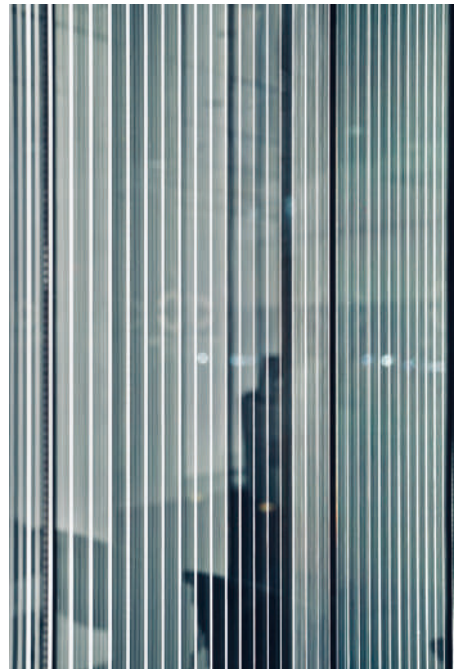
2022年 「Legal Portraits」 (Design Festa Gallery / 東京)  
2023年 「General emptiness」 (New Space PA / 東京)



特選

青山

ムラコシ ユタカ



奨励賞

---

Nature & Life  
田名網 宏昭



かながわ賞

---

ダンスホール  
石渡 延次



かながわ賞

---

空模様

萩久保 次郎



美術奨学会記念賞

---

昼さがりの水辺

大河



美術奨学会記念賞

---

夏の生を記憶するものたち  
二階堂 真優

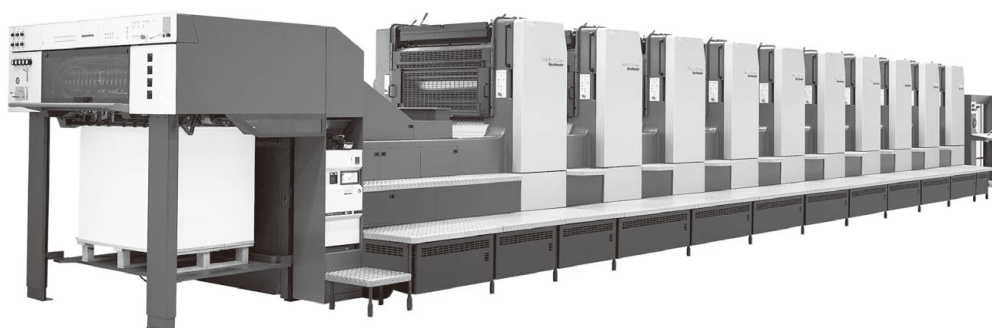


神奈川新聞社賞

---

大切なもの  
稲垣 健

人から人へ情報を伝えて76年  
これからも人の心に残る製品を創ります。



UV印刷機導入いたしました

画集・美術展図録を制作から印刷・製本・納品まで  
一貫した体制で承ります。お気軽にお問い合わせ下さい。

株式  
会社 **啓生堂印刷所**  
<http://www.kiseido.jp>

〒143-0015 東京都大田区大森西4丁目6番13号  
Tel.03-3766-1711 Fax.03-3766-1976  
e-mail: [print@kiseido.jp](mailto:print@kiseido.jp)

The 59th Kanagawa Art Exhibition 2024  
第59回神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会

〒231-0023

横浜市中区山下町3-1 神奈川県民ホール内

TEL.045-662-5901(代)

写真撮影：秋葉雅士

印刷：株式会社気生堂印刷所

発行：2024年9月4日

